

大阪母子保健研究 52-59 ヶ月時追跡データの結果 社会経済状況と喘鳴及びアトピー性皮膚炎との関連

背景：過去に欧米で実施された一部の疫学研究によると、親の教育歴が高いほど子のアトピー性皮膚炎が多いという結果がある一方、親の教育歴が低いほど子の喘息が多いという結果が報告されていますが、一致した見解が得られておりません。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査から第5回追跡調査（生後 52-59 ヶ月時）までの全ての調査に参加した 480 名を対象としました。ISAAC の疫学的診断基準により喘鳴とアトピー性皮膚炎を定義しました。母親の年齢、居住地、両親のアレルギー既往、妊娠中母親喫煙、年上兄弟数、子供の性別、受動喫煙及び生後 1 年以内の保育状況を交絡因子として補正しました。

結果：ISAAC では喘鳴或いはアトピー性皮膚炎の症状を有した子は、それぞれ 77 名 (16.0%) と 94 名 (19.6%) でした。また 4 歳半までに医師に喘息或いはアトピー性皮膚炎の診断を受けた子は、それぞれ 45 名 (9.4%) と 53 名 (11.0%) でした。母親が高卒の子に比較して、母親が大卒以上の子では、ISAAC による喘鳴と医師診断喘息のリスクの高まりと有意な関連を認めました。父親が高卒の子に比較して、父親が大卒以上の子で、ISAAC によるアトピー性皮膚炎のリスクが有意に高まりました。母親の職業或いは家計の年収では、いずれのアレルギー疾患とも明らかな関連は認めませんでした。

| | | 補正オッズ比 (95%信頼区間) | | | |
|----|-------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|------------------|
| | | ISAAC 喘鳴 | 医師診断喘息 | ISAAC アトピー | 医師診断アトピー |
| 母親 | 高卒 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| | 短大、専門 | 1.05 (0.51-2.24) | 1.87 (0.72-5.57) | 1.09 (0.59-2.08) | 1.17 (0.54-2.68) |
| | 大卒以上 | 2.41 (1.18-5.17) | 2.70 (1.03-8.08) | 1.29 (0.67-2.53) | 1.15 (0.50-2.74) |
| 父親 | 高卒 | 1.00 | 1.00 | 1.00 | 1.00 |
| | 短大、専門 | 1.03 (0.44-2.31) | 0.93 (0.32-2.48) | 1.24 (0.58-2.60) | 0.98 (0.38-2.38) |
| | 大卒以上 | 1.81 (0.97-3.52) | 1.11 (0.52-2.42) | 1.89 (1.07-3.42) | 1.31 (0.66-2.71) |

結論：母親の学歴が高いほど喘鳴と喘息のリスクが高まるのかもしれないし、父親の学歴が高いほどアトピー性皮膚炎のリスクが高まるのかもしれない。

出典： Miyake Y, Tanaka K, Sasaki S, Hirota Y. Parental employment, income, and education and allergic disorders in children: a prebirth cohort study in Japan. *Int J Tuberc Lung Dis.* 2012; 16: 756-761.